



ゆりかご 園だより

2026.7.1



5月の新入園家庭歓迎会でお手伝い頂いた
父母の皆さま、素敵な歓迎会をありがとうご
ざいました。新歓が終わって間もない感しも
しますが、園内では足ばやに夏まつりの準備
がはじまっています。在園児のみならず、地
域の人にも多数参加してもらって交流がで
きたら大変うれしく思います。今月開催の夏ま
つりもどうぞ宜しくお願いします。

さて、先月の園だよりでお知らせしたとおり、6月1日からゆりかご保
育園に実習生がきました。1日から12日までの10日間をゆりかごの子
どもたちと一緒に過ごしたので、お子さんからもお話を聞いているかもし
れませんが、子どもとの関わりについて非常によく準備し、うまくいかな
いときは試行錯誤しながら、多くのことを学んで大学に戻っていったの
ではないかと思います。子どもたちも最終日は名残り惜しむかのように最後
の最後まで窓から手を振っていたことが大変印象的でした。

今回、実習生の姿を見て改めて思うことは、やはり基本の習得は大事で
あるということです。保育という仕事はマニュアルどおりには決していか
ない仕事ですが、どんな保育をするにしても、先ず習得しなければならない
こと（基本）があり迷ったときはそこに立ち返るべきだと思うからです。
臨機応変は基本が身についているからこそできることであって、これは就
学後の学習でも同じですし、お父さんお母さんのお仕事においても概ね同
じではないかと思います。スポーツや音楽でも同じで、ある著名なドラ
マーが「自分のおなかの中に同じビートがゆるぎなく流れていれば何を
やってもOK。でもそれが無くてパターンだけを追ってしまうと薄っぺら
い演奏になってしまう」と言っておりましたが、大いに通ずるものがある
ような気がします。

今回の実習生は、とにかくよく子どもたちをよく見ていました。私たち
保育士も保育の計画を立てる際は子どもの姿から始まるということを意識
しており、そこがスタートになってじゃあ次はこうしてみようと展開され
ていきます。子どもたちを見る目はまさに保育の基本の中の基本と言える
ものなので、今回の実習生が子どもたちの姿をとらえることを大事にして
いたことは大変すばらしかったと思います。

8月には、また次の実習生がきますので、保護者の皆さまもぜひ積極的
に話かけて頂けると実習生の良い経験になるのではないかと思います。

